

令和6年度（対象年度：令和5年度）自己点検・評価シート

所属学部・学科名	文学部・児童教育学科(小)
責任者（又は記入者）	間處 耕吉

基準領域 1	教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み
--------	------------------------------

○事前確認

前年度の自己点検・評価報告書から、伸長・改善計画、評価結果の課題事項を転記しますので、確認してください。

認証評価結果（自己評価委員会案）において指摘された事項について確認してください。

〈前年度の伸長・改善計画〉

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
1	児童教育コース（小）では、学生に対して、教員に必要な専門的で幅広い知識及び教育免許状取得のためにG P Aを意識した質の高い単位取得を目指すように呼びかけているが、不十分な学生がおり、免許状習得のための要件を満たせず免許取得を断念する学生がいる。
2	児童教育コース（小）では、機会に応じて専任の教職課程教員間で情報交換や議論を重ねているが、今後、情報共有や協力体制をさらに強化していく必要がある。
3	児童教育コース（小）では、ポータル上で学生が自己の学修成果及び自己評価をできるようにしているが、その利用率及び運用の効果をさらに高める必要がある。
4	教員養成サポートセンター所長は、教職課程の教員配置について教職課程認定基準を把握するよう努めているが、負担を軽減し人事委員会内での適時判断ができるよう、教職課程に関わる案件において人事委員会における教職事務担当者を位置づける必要がある。
5	各学科と全学組織の見地、全学的意思の統一をはかる難しさがある。
6	教員養成G P 予算付与期間を過ぎて以降の予算管理及び設備管理・運用の組織的再配置を進める必要がある。
7	授業評価アンケートの担当部署から、結果提供を受けられるしくみをつくる必要がある。その上で、教職課程についてのF D・S Dの取り組みにつなげることが必要である。
8	数値的な公表については年度更新を行っているが、全体的な情報について評価を受ける機会はこれまでなく、短大部との見せ方にも方針をたて統一性をもたせたい。

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
9	児童教育コース（小）では、組織の改善点は現時点で見当たらないが、毎年 の状況変化に合わせた手引きの改訂等、細かな調整について計画的に取り組んで いく。

＜前年度の評価結果（課題事項）＞

課題事項＜箇条書き＞ * 各項に課題事項を記載。該当がない場合は「なし」と記載。
なし

＜【参考】認証評価結果（自己評価委員会案）における指摘事項＞

* 認証評価結果（自己評価委員会案）は、最終的な認証評価結果の前段階にあたります。
このため、今後、指摘内容に変更（削除を含む）が生じる場合があります。

総評における助言／是正勧告／改善課題

令和6年度（対象年度：令和5年度）自己点検・評価シート 1

所属学部・学科名	文学部・児童教育学科(小)
責任者（又は記入者）	間處 耕吉

基準領域 1	教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み
--------	------------------------------

1 対象年度における組織（自分）の状況について、自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に、「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」「Ⅳ」の4段階で記入してください。

判定の目安

Ⅳ： 基準に十分に適合している

Ⅲ： 基準に適合しているが、継続的に保証する仕組みの構築が必要である。

Ⅱ： 部分的に適合していないため改善を要する。

Ⅰ： 基準に適合しているとはいえない。

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価
			現 状
1	教職課程教育の目的・目標を共有	① 教職課程の目的・目標を「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知している。	Ⅲ
2		② 育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。	Ⅲ
3		③ 教職課程教育を通して育もうとする学修成果（ラーニング・アウトカム）が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図っている。	Ⅲ
4	教職課程に関する組織的工夫	① 教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。	Ⅲ

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価
			現 状
5	教職課程に関する組織的工夫	② 教職課程の運営に関して全学組織(教員養成サポートセンター等)と学部(学科)の教職課程担当者として適切な役割分担を図っている。	Ⅲ
6		③ 教職課程教育を行う上での施設・設備が整備され、ICT 教育環境の適切な利用に関しても可能となっている。	Ⅱ
7		④ 教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD(授業・カリキュラム改善、教・学生支援体制の整備等)やSD(教職員の能力開発)の取り組みを展開している。	Ⅱ
8		⑤ 教員養成の状況についての情報公表を行っている。	Ⅲ
9		⑥ 全学組織(教員養成サポートセンター)と学部(学科)教職課程とが連携し、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能しているか、この自己点検評価を通じて機能しつつある。	I

自己点検・評価シート 2

2 自己点検・評価

対象年度における組織（または授業担当者）の状況を自己点検・評価し、「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
長所・特色（箇条書き） ＊先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「Ⅳ」のもの	
課題事項<箇条書き> ＊伸長すべき点、改善すべき点	
項目 No. 6	・小学校現場で整備されている ICT 機器（タブレット端末）が、大学の備品として学生数分充足していないため、それらの整備が求められる。
項目 No. 7	・学生からのアンケート回答率が半分もない科目があるため、回答率を高める手立てが必要といえる。
項目 No. 9	・自己点検評価の回答率が半数や、半数を下回る項目がみられる。 ・回答を促す手立てが必要である。

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

＜伸長・改善の進捗状況＞

対象年度における取り組み	
＊成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
・授業評価アンケートの結果をもとに、各教員が自身の授業を改善できるよう取り組んでいる。 ・児童教育コース（小）では、教員養成サポートセンターと連携し、教員採用試験合格率を高めるために学生に働きかけている。	

＜今年度の伸長・改善計画＞

項目 No.	
No. 1	・児童教育コース（小）において、小学校免許取得のための必修単位や教育実習の参加要件が不足している学生に対して、ゼミ担当教員らが個別に指導にあたっている。
No. 7	・学生からの授業評価の結果を、教員が確認することができる環境が整っている。 ・ただし、学生の評価を教員が確認できるまでに時間を要するため、授業期間終了後にすぐさま確認できる環境が必要である。

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	

令和6年度（対象年度：令和5年度）自己点検・評価シート

所属学部・学科名	文学部・児童教育学科(小)
責任者（又は記入者）	間處 耕吉

基準領域 2	学生の確保・育成・キャリア支援
--------	-----------------

○事前確認

前年度の自己点検・評価報告書から、伸長・改善計画、評価結果の課題事項を転記しますので、確認してください。

認証評価結果（自己評価委員会案）において指摘された事項について確認してください。

＜前年度の伸長・改善計画＞

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
10	大学全体として共通する「教師像」をメッセージとして出せているのか検討したい。
11	免許種や学科の特性を踏まえた「教師像」を担保するものであるか基準の評価の機会を定期的にもちたい。
12	各学科が設けている履修要件に照らして課程を運用しているが、適切な規模の履修学生となっているか、などは議論されていない。
13	「履修カルテ」により、学生は自らの教職への道のりを自己点検・評価することができるが、評価の基準であるその項目の内容の見直しやタイミングについて検討が必要である。
14	新入生オリエンテーションの教職課程ガイダンスの際に、「意向調査」を行うなどして早めに全体の希望を把握し、指導に結びつけることはできないか。対象者が把握できれば、働きかけも違ってくるのではないか。
15	教員採用試験対策として、教員採用試験の2次試験対策の体制を維持したまま、1次試験の実施体制を充実することで教員採用試験の合格率を上げるよう改善策をとりつつ点検を行っていく。
16	教員採用試験情報を、東北・関東地方の教育委員会からだけでなく外部機関からもより多く収集し在学生や卒業生に提供し、教員採用試験合格者の目標値を維持する。
17	法令等の理解を深めカリキュラム上の工夫を行う。
18	現職教員卒業生と教職志望の学生が直接交流できる機会を増やし、教員をめざす後輩たちの意識向上に役立てることができるよう今後も継続していく。

〈前年度の評価結果（課題事項）〉

課題事項〈箇条書き〉 * 各項に課題事項を記載。該当がない場合は「なし」と記載。
なし

〈【参考】認証評価結果（自己評価委員会案）における指摘事項〉

* 認証評価結果（自己評価委員会案）は、最終的な認証評価結果の前段階にあたります。
このため、今後、指摘内容に変更（削除を含む）が生じる場合があります。

総評における助言／是正勧告／改善課題

令和6年度（対象年度：令和5年度）自己点検・評価シート 1

所属学部・学科名	文学部・児童教育学科(小)
責任者（又は記入者）	間處 耕吉

基準領域 2	学生の確保・育成・キャリア支援
--------	-----------------

1 対象年度における組織（自分）の状況について、自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に、「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」「Ⅳ」の4段階で記入してください。

判定の目安

Ⅳ： 基準に十分に適合している

Ⅲ： 基準に適合しているが、継続的に保証する仕組みの構築が必要である。

Ⅱ： 部分的に適合していないため改善を要する。

Ⅰ： 基準に適合しているとはいえない。

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価
			現 状
10	教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成	① 当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「入学者受入れの方針」等を踏まえて、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施している。	Ⅲ
11		② 「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始、継続するための基準を設定している。	Ⅲ
12		③ 「卒業認定・学位授与の方針」も踏まえて、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れている。	Ⅲ
13		④ 「履修カルテ」を活用する等、学生の適性や資質に応じた教職指導が行われている。	Ⅰ
14	教職へのキャリア支援	① 学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。	Ⅲ
15		② 学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。	Ⅲ

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価
			現 状
16	教職へのキャリア支援	③ 教職に就くための各種情報を適切に提供している。	Ⅳ
17		④ 教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。	Ⅳ
18		⑤ キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。	Ⅱ

自己点検・評価シート 2

2 自己点検・評価

対象年度における組織（または授業担当者）の状況を自己点検・評価し、「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
長所・特色（箇条書き） ＊先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「Ⅳ」のもの	
項目 No. 16	・教員養成サポートセンターが、教員採用試験に関わる最新の情報を教員と共有している。 ・教員は、それらの情報を授業やポータルを通して、学生に周知している。
項目 No. 17	・学生の教員採用試験合格率を高めるために、3度の特別対策講座を実施している。 ・教員養成サポートセンターによって、学生が論作文指導を受けられる体制が整っている。
課題事項<箇条書き> ＊伸長すべき点、改善すべき点	
項目 No. 13	・児童教育コース（小）にて、学生が「教職履修カルテ」を逐一記録し、振り返ることができるシステムは整っているが、それらの記入を促す必要がある。
項目 No. 18	・児童教育コース（小）にて、教育ボランティアを実施する体制は整っているものの、新型コロナウイルス感染症対策以後、それらの参加者が減少しているため、参加を促す手立てが必要になる。 ・児童教育コース（小）にて、学生が教育ボランティアへ参加しやすい体制になるように、検討し続けていくことが求められる。

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

＜伸長・改善の進捗状況＞

対象年度における取り組み * 成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
・ 学生にとって分かりやすいカリキュラムの在り方についての議論を交わしている。	

＜今年度の伸長・改善計画＞

項目 No.	
No. 16	・ 教員養成サポートセンターと教員とが協働し、各教科や面接の対策講座を開講し、合格率を高めるよう努めた。

4 根拠資料

項目 No.	根拠 記号	

令和6年度（対象年度：令和5年度）自己点検・評価シート

所属学部・学科名	文学部・児童教育学科(小)
責任者（又は記入者）	間處 耕吉

基準領域 3	適切な教育課程カリキュラム
--------	---------------

○事前確認

前年度の自己点検・評価報告書から、伸長・改善計画、評価結果の課題事項を転記しますので、確認してください。

認証評価結果（自己評価委員会案）において指摘された事項について確認してください。

〈前年度の伸長・改善計画〉

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
19	児童教育コース（小）では、実績がある取り組みとあわせて、新たに生じた地域や時代のニーズに即した、新たな取り組みを開発すべきだと考えられる。
20	児童教育コース（小）では、2年次までの幅広い学びから、3年次以降に専門分野を狭めていく際の判断材料がさらに必要である。
21	児童教育コース（小）では、「児童教育講座」において、学校ボランティアの機会を安定的に確保する必要がある。
22	児童教育コース（小）では、科目運営へのICT活用は、新型コロナウイルス対策の遠隔授業として利用が始まったが、対面授業となった後も目的に応じて、利用を継続していくことが必要である。
23	児童教育コース（小）では、「児童教育講座Ⅰ～Ⅳ」での異学年学生グループにおいて、4年次学生の参加を増やすことが課題である。
24	児童教育学科では、学生のシラバスの活用が低調であり、利用率を上げることに課題がある。
25	児童教育学科では、制度の課題は現時点で見当たらない。
26	児童教育学科では、学生の多様な課題に対応するため、学科教員の協力体制を整えているが、より密接な連携が必要である。
27	児童教育学科では、コロナ禍により、多人数での学修機会の減少やグループ学習等の多様な授業形態の制限、幼稚園や保育所、小学校に出向く機会が減少したことで実践的指導力を高める学修が制限されている。
28	児童教育コース（小）では、コロナ禍により、教育ボランティア、介護等体験における学修機会が限定される状況が続いている。

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
29	児童教育コース（小）では、コロナ禍における課題、学生の参加体制における課題を洗い出し、学校訪問による教育ボランティア活動を充実させるため、計画・運営面の大学と学校との連携をさらに強化する必要がある。
30	-
31	協力校での実習受け入れ人数には限度があるため出身校での実習を行わざるを得ない状況となっているが、可能な限り多くの学生が協力校での実習を行えるよう、引き続き教育委員会や近隣学校及び幼稚園との連携を図っていく。

＜前年度の評価結果（課題事項）＞

課題事項<箇条書き> * 各項に課題事項を記載。該当がない場合は「なし」と記載。
なし

＜【参考】認証評価結果（自己評価委員会案）における指摘事項＞

* 認証評価結果（自己評価委員会案）は、最終的な認証評価結果の前段階にあたります。このため、今後、指摘内容に変更（削除を含む）が生じる場合があります。

総評における助言／是正勧告／改善課題

令和6年度（対象年度：令和5年度）自己点検・評価シート 1

所属学部・学科名	文学部・児童教育学科(小)
責任者（又は記入者）	間處 耕吉

基準領域 3	適切な教育課程カリキュラム
--------	---------------

1 対象年度における組織（自分）の状況について、自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に、「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」「Ⅳ」の4段階で記入してください。

判定の目安

- Ⅳ： 基準に十分に適合している
Ⅲ： 基準に適合しているが、継続的に保証する仕組みの構築が必要である。
Ⅱ： 部分的に適合していないため改善を要する。
Ⅰ： 基準に適合しているとはいえない。

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価
			現 状
19	教職課程カリキュラムの編成・実施	① 教職課程科目に限らず、キャップ制を踏まえた上で卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を行っている。	Ⅲ
20		② 学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。	Ⅲ
21		③ 教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、教員育成指標を踏まえる等、今日の学校教育に対応する内容上の工夫がなされている。	Ⅲ
22		④ 今日の学校における ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われている。	Ⅲ

項目	基準評価項目	評価の視点	自己評価
			現 状
23	教職課程カリキュラムの編成・実施	⑤ アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成している。	Ⅲ
24		⑥ 教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法等を学生に明確に示している。	Ⅲ
25		⑦ 教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。	Ⅲ
26		⑧ 「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。	Ⅱ
27	実践的指導力育成と地域との連携	① 取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。	Ⅲ
28		② 様々な体験活動（介護等体験、ボランティア、インターンシップ等）とその振り返りの機会を設けている。	Ⅲ
29		③ 地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けている。	Ⅲ
30		④ 大学ないし教員養成サポートセンター等と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築を図っている。	Ⅲ
31		⑤ 教員養成サポートセンター等と教育実習協力校とが教育実習の充実を図るために連携を図っている。	Ⅲ

自己点検・評価シート 2

2 自己点検・評価

対象年度における組織（または授業担当者）の状況を自己点検・評価し、「点検項目」ごとに具体的に説明してください。

現状、「何を」規定または実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。	
長所・特色（箇条書き） ＊先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「Ⅳ」のもの	
課題事項<箇条書き> ＊伸長すべき点、改善すべき点	
項目 No. 25	・シラバス上で、教育実習とのつながりを具体的に示す必要がある。
項目 No. 26	・学生が系統的・持続的に問いをもって学ぶことができるように、意識付けをさせることが求められる。

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

〈伸長・改善の進捗状況〉

対象年度における取り組み	
＊成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
・教育拠点校実習やスクールトライアルといった教育ボランティア活動について、コロナ禍による制限がかかっているが、市・県教育委員会と協働しながら実施を進めている。	

〈今年度の伸長・改善計画〉

項目 No.	
No. 21	・児童教育講座において、学生が教育ボランティアに参加するように、各クラス担当教員が働きかけている。
No. 22	・教員が授業ごとに ICT の活用に取り組んでいる。 ・場合によっては遠隔授業（オンデマンド、ストリーミング等）も実施できる体制が求められる。

4 根拠資料

項目 No.	根拠 記号	